

2020年「高松宮殿下記念世界文化賞」報告書特別号  
『芸術の力とコロナウイルス・パンデミック』  
—高松宮殿下記念世界文化賞 受賞者は語る—

\*メッセージの一部抜粋

絵画部門

2003 ブリジット・ライリー (イギリス)

私たちは、自己規律、忍耐、楽観主義、寛容さ、そして少しのユーモアを備えて、コロナウイルスと共存する方法を学ばなければなりません。(2020年8月)

2004 ゲオルク・バゼリッツ (ドイツ)

政治的危機に鼻の利く私は、コロナが政治問題に過ぎず、他の何物でもないことを理解できます。そして、こうした危機から利益を得ることができる者たちに目を光らせることが必要です。(2020年7月)

2009 杉本 博司 (日本)

中世のペスト流行、人々は神が人を罰しているのだと思った。しかし今、神は人を罰するほどの力を失ってしまった。私は自然の摂理が人を罰しているのではないかと思うのだ。文明とは環境破壊を食物にして成長する。今、成長の臨界に達した一生命種としての人類は、全滅を避けるための自動調節機能が働いて、活動の自粛を求められているのだ。(出典：読売新聞 2020年4月15日)

2011 ビル・ヴィオラ (アメリカ)

スペインで最も高い死亡率を記録したマドリードでは、6月にテレフォニカ財団が細心の注意を払って展覧会を再開しましたが、それまでの数カ月間の恐怖と悲しみから解放され、癒しを必要としていた来場者にとっては、“鎮静薬”のようなものだったと報告しています。これこそが私たちの願いであり、アートがもたらす安らぎと慰めを、一般の方々が再び手にすることができるようになることを願っています。(ヴィオラ夫人のキラ・ペロフ代筆 2020年8月31日)

2012 蔡 國強 (中国)

突然のパンデミックは、世界の地政学的バランスを崩し、既存の政治システムに挑戦しています。共通の脅威に直面している間、私たちはさらに分裂しているように見えます。パンデミックは、米中関係だけでなく、世界中の関係を緊張させました。グローバリゼーションは、国家保護主義に屈し始めています。問題は、これが人々を内省に導くかどうかです。これには自然についての反省も含まれていますが、パンデミックは、私たちのお互いの関係、そして自然との関係を改善することができるかどうか

問題です。人類は長い間、新しい考え方や新しいビジョンを待っていました。パンデミックの後の世界がどう変わるのか、人類がどう変わるのか、皆が話しています。もはや観客で埋まっていない、誰もいないギャラリーの中で、芸術の先人たちは『いずれにせよ、われわれはいろんなパンデミックや世界大戦の最中に、この壁にある絵を描いたんじゃないかな』と気楽に談笑しているかもしれません。というのも、ダンテが『神曲』を書き、ジョヴァンニ・ボッカッチョが『デカメロン』を書き、シェイクスピアが『リア王』と『マクベス』を書いたのは、まさに黒死病（ペスト）の脅威の中でした。苦難の中の苦しみが無限の創造性を燃え立たせたのです。（2020年9月）

### 2013 ミケランジェロ・ピストレット（イタリア）

私自身は、何十年も前からアーティストとして『社会の再生』と称した活動を行ってきました。この危機の衝撃が人間の創造性を深くかき立て、人工物と自然の真のバランスを確立し、『社会の再生』を可能にしてくれることを期待しています。（2020年8月29日）

### 2014 マルシャル・レイス（フランス）

私は今日、芸術として提示されるものの大半はまったく退廃的とみなしていますので、この“連続殺人鬼”（新型コロナウイルス）の影響から新たなものが生まれるとは思いません。せいぜい商業目的の、大衆に媚びた陳列に過ぎないものになるでしょう。（2020年7月）

### 2015 横尾 忠則（日本）

コロナ禍の収束の時期はわれわれには見えないが、コロナが感染を止めない限り、《WITH CORONA》のキャンペーンは続けていきたいと思う。このタイトルは文字通り、コロナを味方につけて、コロナとの共生共存を目的としながら、その日常の中で、生と死に向かい合うことで、自己と世界を見つめ合いながら、地球的視点を超えて成層圏の外へ広がる宇宙的意識を獲得することで、人類がかつて、あまり経験したことのなかった未曾有の時間体験への旅に立つ覚悟が必要ではないのか。この体験が人類にとっての新しいオデッセイの旅になること、自らの魂と共に歩むことになるような気がする。（2020年9月1日）

### 2017 シリン・ネシャット（イラン／アメリカ）

私は心が揺れ動き、自分自身の虚無的な考えと戦いながら、短期間で人間の苦しみと政治的混乱を目の当たりにしてきましたが、今日、この原稿を書きながら、不思議なことに、芸術とその変革の力への信頼を取り戻したいという衝動に駆られ、内省と強さ、そして何よりも大切な未来への希望を、もっと垣間見てやろうと決意しています。（2020年9月9日）

### 2019 ウィリアム・ケントリッジ（南アフリカ）

世界では明らかに新しい形の相互作用、コミュニケーションの仕方が始まっています。ウェビナー（オンラインセミナー）、ズーム、仮想パフォーマンスなどの活動は今までもありましたが、今やピークを迎えているようです。しかし、私にとっての基本的な疑問、スタジオで芸術活動することにどういう意味があるのか、については何も変わっていません。ゆっくりと長い時間をかけて疑問に立ち向かうことが、スタジオと同様に世界ともつながっていることに自信を持つべきだ、と私は思います。スタジオでの『ゆっくり・着実』をモットーとする仕事は、今後の状況に光を与え、癒しを与えるはずです。この

ことは何千年にわたって芸術の中心的な役割の一つであり、今も昔と同じように重要になっていると思われまます。(2020年7月)

## 彫刻部門

### 1990 アルナルド・ポモドーロ (イタリア)

将来的には、必要な感情的親密さを維持しながら、物理的距離を適切に保つにはどうしたらいいのかと自問自答しなければなりません。私は、そのバランスを見つけるのも、作り出すのも難しいのではないかと思うし、恐れています。個人の自由とパンデミックの関係を私たちは見直すことができるか、あるいは、医療だけでなく政治的・社会的な戦いができなくなるか、そのどちらかでしょう。(2020年8月)

### 2002 ジュリアーノ・ヴァンジ (イタリア)

自分の作品については、流行に左右されるものは一切捨てて、前向きな気持ちを加えていきたいと思っています。私はこれまで「人間の苦しみ」というテーマを多く扱ってきましたが、今、私たちが必要とするのは、もっと大きな希望だと思っています。人々は芸術と文化をますます必要とするでしょう。芸術は人間が成しえる最も崇高な努力であり、私たち自身の死に直面した時にできる最大の抵抗行為なのです。(2020年7月)

### 2008 イリヤ & エミリア・カバコフ (ロシア/アメリカ)

私たちが、相互不理解、未知への恐怖、他者への恐怖といった世界の主要な問題を克服することを学び、「コミュニケーション術」、他の文化、宗教、嗜好に対する「寛容さ」を学び、自分のためだけに自由を求めるのではなく、「他の人々の自由を尊重する」ことを学ばば、地球上のすべての人のために完璧な人生さえも作れる可能性があります。そして「芸術」と「文化」はその中で極めて重要な役割を果たします。今までも、そしてこれからも。(2020年8月)

### 2009 リチャード・ロング (イギリス)

(作品のみのため省略)

### 2011 アニッシュ・カプーア (イギリス)

芸術は私たち人間に所属感、社会的な絆を与えてくれます。芸術活動に参加することは共同社会の連帯を強めることになります。これこそ、今、危機の時代に必要なことです。(2020年7月)

### 2012 チェッコ・ボナノッテ (イタリア)

《私たちは、新しい夜明けや日の入りの光を解き放ち、目の前の世界のイメージと、私たちの中にある物理的なものや抽象的なものを再解釈し、私たちの内なる魂を蘇らせ、新たなビジョンを創造することをアーティストに託さなければなりません。》芸術家は“芸術的な尊厳”の獲得に魅力を感じてお

り、《芸術の進化とは、その尊厳に向かって頑固に追求し、常に上昇し続けていくことに他ならない》ことを忘れてはなりません。(2020年8月7日)

### 2013 アントニー・ゴームリー (イギリス)

アートは、集団的・個人的な自己認識の触媒として中心的な役割を果たすようになるでしょう。感情や共感の表現、自己表現や自己決定のため、また共同体の価値観の表現として、私たちが愛し、価値があると信じているものを具現化し、顕在化させるためです。芸術は、これまで以上に重要なものとなるでしょう。(2020年9月1日)

### 2014 ジュゼッペ・ペノーネ (イタリア)

パンデミックの危機は確かに、結果として、私たちが慣れ親しんでいる民主的な自由を低下させる可能性があります。芸術はこれに対抗し、個人の自由を擁護することができるし、そうしなければなりません。なぜなら、芸術は人間の感覚、情緒によって成立しているからです。それは、自分や自然と向き合うことで感じる感情や想像力、興奮の容量を支配するさまざまな“心の刺激”に基づいています。それらは、私たちが結びつける特性であり、現在と過去のすべての人間と共有するものです。そして、芸術、詩、夢は人間生活にとって最も必要なものです。(2020年8月)

### 2015 ヴォルフガング・ライプ (ドイツ)

全ての危機は規模が大きいほど人類に違った将来をもたらしてきた。私たちが異なった場所に誘い、想像を超えた何かを発見させてもきた。私たちは人間の在り方、生き方に新しい道を見出すだろう。(2020年5月)

### 2016 アネット・メサジェ (フランス)

すべての芸術作品はユニークで独創的であり、作家の本質の不可欠な部分です。芸術の力とは、私たちに問いかけ、集団的にも個人的にも私たちをつなぐ感情を目覚めさせる能力にあります。これこそが、今、私たちがこれまで以上に必要としていることだと思えます。(2020年9月29日)

### 2019 モナ・ハトゥム (イギリス)

この危機は、ビジュアルアートの見方に多大な影響を与えました。私たちは、すべてのものがフラットで非物質的になった電子時代に突入しました。電子メディアだけで芸術作品を観るというのは、五感に訴える芸術の現象学的性質を体験するには非常に不十分な方法です。特に彫刻やインスタレーション作品を鑑賞する際には、本質的に複数の視点からの体験が必要となるため、不適切なのです。私が数カ月間孤立していた後に初めて展覧会を訪れた時、芸術作品を実際に見ることの大切さを思い知らされました。どの作品も、別の世界に連れて行ってくれるようで、視野が広がり、想像力を掻き立てられます。(2020年9月15日)

## 建築部門

### 1996 安藤 忠雄 (日本)

このままコロナとの長く地道な戦いを制したとしても、恐らく社会はもう以前の通りには戻らないのではないかと思います。これまで世界を動かしてきた仕組みそのものが破たんしつつあり、新しい秩序が求められています。今私たちがすべきことは、的確な判断力と感受性を養うことです。その為にはやはり、芸術文化の力が不可欠なのです。新しい価値観は、新しい芸術文化を生みます。この世界規模の変化を柔軟に受け止め、自らの表現に活かしていくことが今後アーティストには求められることになるでしょう。芸術文化の力は、ばらばらになった人々の心の一つにつなぎ、一つにまとめることが出来ます。その意味でアーティストの果たすべき役割は、コロナ前よりもむしろ大きくなるのではないかと期待しています。(2020年9月12日)

### 2002 ノーマン・フォスター (イギリス)

より健康的な建物が求められるようになるでしょう。仕事や娯楽のために人が集まる建物の空気質を改善しなければなりません。“密閉された箱”の中で、よどんだ空気を再利用する空調システムは、今後は姿を消していくでしょう。世界と地域が協力して行動することで、私たちはパンデミックから回復するだけでなく、繁栄することができます。ツールは揃っていますが、私たちはより幅広くそれらを使用する必要があります。すべての芸術は、このプロセスに決定的な貢献をすることができるのです。(2020年9月9日)

### 2005 谷口 吉生 (日本)

感染症対策に必要な建築の課題は、単に公衆衛生上の問題として解決されることを超えて、建築全体における機能改革や新しい考え方を求めている。建築は単に生活するための機械ではなく、また特定の人だけが居住するための装置でもない。多くの人々を招き入れ、安全に集うことができ、感動を与える芸術としての建築が求められる。最先端の技術による機能と豊かな創造力による美しい意匠を持った、建築文化の出現が期待される。(2020年8月28日)

### 2010 伊東 豊雄 (日本)

これからの建築や都市環境を考える時、私達が変わらなくてはならないのは、経済最優先の社会を促している近代主義思想である。即ち我々は、技術によって自然を征服できると考えるのではなく、自然と共生する建築や都市の論理を再構築しなくてはならないのである。建築もひたすら自然環境から切り離して断熱性を高めた人工環境に頼る時代ではない。かつてのような自然と一体化した建築をつくり、新しいシミュレーション技術を駆使して温熱環境をコントロールする、それが新しい建築のあり方である。我々はコロナ禍を明日の新しい生活に変える好機としなくてはならない。災い転じて福となすべきである。(2020年8月12日)

### 2013 デイヴィッド・チップパーフィールド (イギリス)

学ぶべき教訓は、物事を異なる方法で行うことが可能であり、基準を並べ替えたり、物事の構造に疑問を投げかけたりすることが可能であるということです。この明白な危機に直面しても、力強く断固とした対応ができるのであれば、なぜ気候変動や社会的不平等には対応できないのでしょうか？ さらに壊滅的に脅かされるまで、待たなければならないのでしょうか？ もし私たちが職業上、このパンデ

ミックの期間を乗り切ることができれば、恐らく、こう主張する勇氣とより大きな義務を与えられるでしょう。「生活に堅実さを与え、生活の質の基本条件にふさわしい背景として役立つ建物、空間、オブジェのみを創造すべきだ」と。(2020年9月18日)

#### 2014 スティーヴン・ホール (アメリカ)

このような世界的な危機に直面している時に、積極的なソーシャル・ネットワークを介して、芸術の役割はこれまで以上に重要であると考えています。芸術はインスピレーションを与え、現在の生活を定義するのに役立ちます。米国の偉大な詩人、ケネス・レクスロス (1905-82) が書いたように、「世界の破滅に対して、唯一の防御は創造的行為」なのです。どのような状況下でも制作される創造的な作品によって、われわれは文化の中心的な意味と私たちの存在の核心的な目的を実現します。(2020年7月8日)

#### 2016 パウロ・メンデス・ダ・ホッシャ (ブラジル)

今回の現象には非常に肯定的な啓示があります。それは、私たち人間は自然界の一部であり、同じ時間を共に生きている存在であるということを改めて意識させてくれる一寸の光です。それは時宜を得た私たちへの問いかけとも言えます。(2020年8月)

#### 2017 ラファエル・モネオ (スペイン)

パンデミックは、建築家の意識を目覚めさせるとともに、いかに住宅が彼らの注意を引く第一の対象であるべきかを再考させます。私たちが見てきた都市は砂漠化、無人化し、「他の都市」に変わり、“早期考古学”と化していますが、私たちは建築家の仕事をそれまでと同様に続けることができるように、都市の活力が早急に回復することを願っています。(2020年8月31日)

#### 2018 クリスチャン・ド・ポルザンパルク (フランス)

「危機から、危険から、救いは育つ」とフリードリヒ・ヘルダーリン (ドイツの思想家) は書いていますが、ロックダウン (都市封鎖) について諸国が世界的に合意したことは、人間が危機を乗り越えることが可能かも知れないと考えさせてくれます。コロナウイルスによる残酷な死への恐怖は、人類を一種の強制的な連帯の中で多少は結びつけてきましたが、それは私たちにとっては、切望する連帯を実現するための序章でなければなりません。地球規模の惨禍への恐怖は、日に日に強くなっていくでしょう。そして、私たちが乗り越えるための“救いの波”は、より強力でなければなりません。(2020年9月14日)

#### 2019 トッド・ウィリアムズ&ビリー・ツィン (アメリカ)

希望の道を歩み続けるために、私たちは建築家として何かを寄与することができるのではないかと感じています。私たちの考えでは、建築はスタイルよりサービスが大事です。空間とは基本的に民主的でなければなりません。建物を造るに当たり、私たちはオープンスペース、インフラ、持続可能性に焦点を絞るべきです。建物の建設は、少数のためではなく、大勢のためであるべきです。芸術や文学など全ての創作は、人と人をつなぐことが根底にあります。それは、私たちが孤独でないことを気付かせてくれます。私たちが夢を抱けることを思い出させてくれるのです。(2020年7月)

## 音楽部門

### 2006 スティーヴ・ライヒ (アメリカ)

この疫病が最終的にやんだ時、人々はあらゆる種類のライブ・コンサートに熱狂的に戻ってくると思います。私たちは音楽の演奏を視聴することが大好きなのです。それは私たちの DNA に組み込まれています。この病が一日も早く終焉し、共に生の音楽が味わえる日が来ることを願うばかりです。

(2020年7月)

### 2008 ズービン・メータ (インド)

私たちの生涯で、今経験しているような危機が全世界を覆ったことはありませんでした。一人ひとりが、それぞれの方法で、この世界的な呪いに苦しんだり、逃れたりしています。今まで、この恐ろしい病気にかからなかったことを幸運に思っている者は、自分たちが非常に幸運であると思わなければなりません。私たちは、芸術的な祝福が求められるところに手を差し伸べ、他の人々を助けるべきなのです。(2020年8月)

### 2010 マウリツィオ・ポリニ (イタリア)

パンデミックはいまだに猛威を振るっており、状況がいつ正常化するかわかりません。その結果はどうなるのか、影響を受けたすべての社会はどうなるのでしょうか。今のところ、私たちは何も予測することができません。病院での仕事と英雄的な自己犠牲を通して、病人を助けるために命を捧げた医師や看護師は称賛に値します。(2020年8月25日)

### 2014 アルヴォ・ペルト (エストニア)

この小さなコロナウイルスというものは、私たち人間は均一で単細胞と言ってもいい生き物で、他の生物との「関係」なしでは存在できないことを痛感させてくれています。この危機は、政治システムであれ社会システムであれ、あらゆる種類の問題点、弱点を次々と顕わにしました。この危機は誰にも容赦しません。追い詰められた人間は本音の“価値観”を示さざるを得ません。もはや今までのように隠すことができないからです。この危機からどのようにして逃れられるか誰もわかりませんが、全てが今まで通りではあり得ないことを誰もが感じています。(出典：スペイン紙 ABC 2020年4月7日)

### 2015 内田 光子 (イギリス)

ルネサンス時代には数え切れないほどの戦争、疫病、残虐行為、悲劇がありました。何を覚えていますか？ 私たちは偉大な芸術家や作家を覚えています。芸術よ、永遠なれ！(2020年9月22日)

### 2018 リッカルド・ムーティ (イタリア)

イタリアでの感染が最大になり、指揮活動できなかつた3カ月の間、私はベートーヴェンの『ミサ・ソレムニス (荘厳ミサ)』の譜面を毎日、何時間もかけて徹底的に研究することが出来ました。この作品は2020/21年のシカゴのオーケストラシーズンのオープニングで演奏される予定でしたが、ウイルス

のおかげで、私はこの崇高な作品の勉強に多くの時間を費やすことが出来ました。ウイルスのため経済的に悲惨な状況となり、この秋にはその影響がより明確に表れるでしょう。しかし、私たちは、ある時点で社会が恐怖の中で生活することを止めなければならないことに注意しなければなりません。そして、どこかの国の政府が、ウイルスによって作られた状況を利用して専制主義となり、保険衛生面で独裁的に人々を抑え込むことのないようにしなければなりません。私たちは肉体の健康上も精神的にも、常に自由であることに注意が必要なのです。(2020年9月)

### 2019 アンネ=ゾフィー・ムター (ドイツ)

私が音楽家であるのは、バイオリンを弾くことが好きだからですが、最終的には、他の人のために演奏しています。そして、そう遠くない将来に、その場にいる観客の目の前で演奏することが可能になると固く信じています。皆さんのために再び演奏できるという期待は、この困難な日々を乗り越えるのに役立ちます。そして、この期待は計り知れないほど大きくなっています！(2020年6月17日)

## 演劇・映像部門

### 2009 トム・ストッパード (イギリス)

(コロナ後の社会は)自由が減り、集団化が進むと思いますが、個人主義は芸術の源泉であり続けると思います。(2020年7月)

### 2010 ソフィア・ローレン (イタリア)

落胆しないためと、この新しい状況に立ち向かうためには、楽観主義は確かに非常に強力な武器となります。私は楽観主義者であり、今までずっとそうでした。どんな問題にも必ず解決策があると固く信じ、そう思わなかったことはありません。私たちは、我を忘れてはならないし、意気消沈してはいけなし、信じることを止めてはいけません。私たちは個人として孤立することはできませんが、地球規模の幸福のためには、すべての人を助けなければなりません。多くの人が多くのもを失ったことは誰もが知っていますが、「勇気を持とう。新しい夜明けは必ずやってくる！」と信じなければなりません。(2020年7月)

### 2011 ジュディ・デンチ (イギリス)

コロナウイルスによって劇場や映画館は閉鎖され、私の職業は壊滅的な影響を受けています。芸術全般が通常の方法では継続することができなくなりました。少なくとも当分の間は、私たちは皆、新しい生活様式に適応しなければならず、コミュニケーションや娯楽のための他の方法を探すことになると思います。多くの人にとっては全体の生活様式が変わってしまいましたが、人類にはこの上なく順応性があります。(2020年8月)

### 2012 森下 洋子 (日本)

新型コロナウイルスは大きな困難ですが、命の尊さや人と会えることのありがたさなど、普段気づけない大切なことに気づかせてくれました。文化芸術は私たちの人生を豊かにしてくれる尊いもの、そし

て私たちの生活に不可欠なもの、そう感じていただけるような、命を尊び、人類全体の幸福へと向かう文化芸術の可能性が広がる機会でもあると思っています。(出典：産経新聞 2020年6月19日)

#### 2014 アソル・フガード (南アフリカ)

私は多くの南アフリカ人の経済的安全保障が崩壊し始めるのを目の当たりにしてきました。その目撃を通して私が認識したのは、偉大な科学という点と、自然とそのすべての力を征服したという私たちの思い込みの観点から見て、私たちが獲得したのは“名ばかりの勝利”に過ぎないということです。当然ながら、その思い込みは全く見当違いです。代わりに、人類は自分たちの知性の無さと、自然界との搾取的な関係という嫌な事実を突きつけられることになりました。私たちは征服したと思っていたものによって、おとしめられたのです。今こそ、謙虚になる時です。(2020年9月1日)

#### 2015 シルヴィ・ギエム (フランス)

人間として、「私たち」がこのような状況を作り出したこと、しかも私たちの無知ではなく、貪欲によってそうなったことを認めるのは腹立たしいことです。何十年もの間、科学者、哲学者、自然・動物愛好家、そして多くの団体によって鳴らされた警鐘は、完全に無視されました。私たちは、非道で犯罪的と言っていいほど、あらゆる種類の生き物への敬意を欠いており、このことがすべての人にとって不均衡で危険な世界を生み出しました。なぜ、私たちはその時、それを許してしまったのでしょうか。そして、なぜ今日も、それが間違った方法であることを知っているのに、以前のように行動し、それを続けているのでしょうか？(2020年8月28日)

#### 2016 マーティン・スコセッシ (アメリカ)

危機に触発されて、新しい作品をたくさん想像するようになりました。実際に映像で創作することができるようになる時が来るのを楽しみにしています。(学ぶべき)最も重要な教訓は、「物事は変化する」ということです。私たちは、知っていて頼りにしている物事や人、状況が永遠に変わらないと思って人生の多くを過ごしていますが、実際にはすべてのものが変化したり、終わりを迎えたりします。私たち全員が今、それを見えています。知っているか、認めたいかどうかにかかわらず、私たち全員が今、それに立ち向かっているのです。(2020年9月23日)

#### 2017 ミハイル・バリシニコフ (アメリカ/ラトビア)

私個人の仕事については、ここ数カ月は休眠状態が続いていましたが、今は多分、切羽詰まったせいで、可能性のある新規プロジェクトや未完成のプロジェクトに目を向けています。それは日本にもあるかもしれません。ここ数十年、私は日本で素晴らしい経験をしてきました。そして、新しいプロジェクトとパンデミック後の新しい視点を持って、日本に帰ることが夢です。あとは、それがいつ実現するかだけです。私たちは、すべての人々に対する新たな思いやりを持って2021年を迎えることができ、芸術が人々を元気づけ、慰めを与え続けてくれることを心から願っています。(2020年9月7日)

#### 2019 坂東 玉三郎 (日本)

今の段階で、ソーシャルディスタンスをとっての芸術活動を考えてはいますが、ソーシャルディスタンスを組まなくても済むようになった時は、今までやってきた形態に戻ることもあるとも考えています。

ただし、この危機を超えることによって、何か新しい様式が生まれてくるのかもしれないとは考えてはいますが、まだその結論には至っていません。慌てて考え、すぐに答えを出そうとして、人間の思考を遥かに超えた情報の速度で物事が進んで行ってしまえば、人間の魂や、心、人間同士の触れ合い、顔を見ながらの心の交流をすることが出来ずに、無機質なデータだけで理解出来たと思込んでしまう危機感さえ抱えています。(学ぶべき教訓は) 世界的な、そして芸術的な「グローバリゼーション」という意味が「果たしてどうであったか」を改めて考え直す時が来たのではないかと思うのです。グローバル化が、ただ悪いということではありませんが、情報があまりにも早く行き交い過ぎて「それぞれの個性が失われている」ことでもあると思います。情報があまりにも早く行き交うことによって、全てが急速に解決できてしまうような思考になってしまうことを恐れています。(2020年9月2日)

## \*追加メッセージ (全文/特別号未収録)

### 建築部門

#### 2015 ドミニク・ペロー (フランス)

前代未聞の新型コロナウイルスの地球全体への蔓延によって、私たちは不安を抱えた生活を強いられ、あらゆる文化活動の健全さがひどく損なわれています。しかし、多くの現代の基準が厳しく問われている今こそ、芸術と文化は、私たちが意義を探求する上でかつてないほど不可欠なものになっています。芸術は、気持ちを奮い立たせてくれる避難所となり、今日では脆くなった私たちの連帯感を取り戻すことを可能にしてくれます。人々の関係をつなぎ、未来に思いをはせることができる芸術家の能力は、今まで以上に必要とされていると思います。

長引く危機の中で、私たちは、新しい働き方に事務所を適応させなければなりません。プロジェクト管理に関する多くの業務はリモートで容易に行うことができます。しかしながら、このような時期を経験して、建築という私たちの仕事が、アトリエでの物理的・身体的な接触にいかにか結びついているかが明らかになりました。お互い密接に協力して作業するチームでのプロジェクト設計には、リモートで行うことが非常に困難な調査や実験が必要です。

建築とは、生活様式、経済的均衡、政治的ビジョンを物理的に支え、保護するものです。複雑さ、場所による不平等な幸福、常に変化する枠組みは、あらゆる建築実務から切り離せない要素ですが、それでもなお、建築家という職業は、これまでになく厳しく試されています。現在の危機は、プロセスのデジタル化を加速させ、私たちの働き方、コミュニケーションや移動の方法の再構築を余儀なくしています。

このような変化は、私たちの生活空間の構築に確実に影響を与え、もしかすると、よりハイブリッドな、さらにはプログラム化された建築に導くかもしれません。この危機は恐らく、批判の的になっていた現代建築の中心テーマ「形態は機能に従う」を終わらせる前触れになるでしょう。今や、コロナ検査や予防接種のための一時的な施設の配置には、柔軟性の高い空間が必要不可欠であることがわかっています。今後は、想定外の緊急利用を受け入れることができる場所を造り出して、さまざまなリスクに対応できる建築を設計することがますます重要になってくるでしょう。

また、人々が持続的に暮らすことのできる、より落ち着いた、疎外を排した都市への移行を加速させるため、建築に前向きに取り組めるよう、現在直面している課題から教訓を得ることを私は願っています。私たちは、無秩序な拡張と自然破壊という負の影響を持つ、終わりなき大都市の開発を抑制しなければなりません。今の時代、私たちに課せられているのは、状況の緊急性を把握し、決意を持って対応することです。私たちは、より回復力があり、民主的で、環境を尊重した空間を定義することを学ぶ必要があります。私たちは、過去の枠組みにとらわれずに世界を発展させるためのシステムやプロセスを生み出さなければなりません。2021年ソウル都市建築ビエンナーレの総監督として、私

は「レジリエンス」（回復力）を考察の中心テーマに選び、世界中の設計者を集めて未来の都市の「全体論的ヴィジョン」を生み出したいと考えています。

世界文化賞は、30年以上にわたって人道主義の価値観を支持してきました。私の考えでは、この賞は芸術と文化に捧げられた最高の賞です。これらの価値観を支持し続けることが、将来に向けての私の最も切実な目標です。（2021年1月25日）